

第13回利賀ダム建設事業監理委員会審議結果

1. 日 時：令和7年9月9日(火) 14:00～15:55
2. 場 所：利賀ダム工事事務所 会議室 及び Web 会議
(一部 Web による出席)
3. 審議結果：

○利賀ダム建設事業の概要について

- ・利賀ダム建設事業の概要、これまでの事業の進捗状況を報告。
- ・事業を巡る社会情勢等について説明し了承された。

○第12回委員会の審議結果について

- ・第12回委員会の審議結果について報告。

○事業の実施状況等に関する事項について

- ・令和7年度の工事概要及び工事進捗状況について説明。
- ・地盤変動域、押場地区、利賀トンネルの施工状況を詳細に説明。
- ・第2回基本計画変更以降、令和2年度より労務費が約1.24倍、資材費が約1.52倍となっているが、コスト削減策を進めながら事業の推進を図っていくことを説明。

【委員からの意見】

- ・押場地区について、深礎工から鋼管杭工への工法変更は設計の基本的な考え方の変更であると考えするため整理しておくこと。また、今回提案の工法は鋼管杭の上を自走するものであり工法変更することで仮栈橋の必要性について確認すること。
- ・地盤変動域の深礎工からすべての対策をアンカー工とする工法変更は設計の基本的な考え方の変更であるため考え方の整理をしておくことが必要。
- ・施工箇所が地すべり防止区域の中であると認識している。工法変更によって法律に基づいた協議・調整を県の関係部局と行う必要があると考える。工程に影響がないよう早めを開始していただきたい。

○コスト削減に関する事項について

- ・これまでのコスト削減額、今後のコスト削減計画及びその状況について説明。

【委員からの意見】

- ・円安やエネルギーの高騰などもありコストが高くなっている状況。工法変更によるコスト増だけでなく、新技術の導入によるコスト減などが見込まれることと思う。住民、県民の皆様にもコストに関する内容を見やすく工夫をしていただき、わかりやすい提示をしていただきたい。
- ・ダムの評価についてもコスト増のマイナス要素だけでなく、治水や利水のプラスの

面についての効果も増えていると考えられるため、いろいろな面で評価しておく必要がある。

- 能登の復旧復興の現場を見ているとコストは何でもかんでも削減すればよい物ではないと思う。個別の課題についてそれぞれコスト削減を考えるだけでなく、多少インシタルコストをかけてでも工程を守ることが結果的にトータルコストの削減となるといった考えが大事であると思う。

○まとめ

- 本体基礎掘削、地盤変動域の掘削について、若干の遅延があるものの重ダンプの規格変更（25 t → 40 t）など遅延解消のために施工計画の変更を行っていること。
- 押場地区貯水池斜面对策の抑止工について、水平ボーリングによる効果が見られないことから工法変更。
- 利賀トンネルにおいて、地山の不良による掘削支保パターン変更やインバート施工が必要になるなど、事業費の増加が見込まれることが示された。
- ダム本体の工程について妥当であることが確認された。非常に厳しい現場であることから、しっかりとした施工計画の検討をお願いしたい。
- コスト縮減については、リスクマネジメントを確実に進め経費削減に努める。また、精査が必要な工種もあり、コスト増に対する抑制について努められたい。
- 利賀ダム建設事業は適切に管理されているが、労務費、資材費が高騰していることから、委員会としても全体事業費の精査を行う必要があるのではないかと考える。